

2014年度 事業計画書

(2014年4月1日～2015年3月31日)

I. 事業計画

2014年度 活動テーマ

ヒーブ視点での新しい価値創造
—生活の質の向上をめざして—

2013年度は「生活者と企業が共に成長する豊かな社会に向かって—ヒーブ視点マーケティングの実践—」を活動テーマとし、設立35周年プロジェクトと連携した活動として「お客様の声を活かした取り組み55事例」の編纂や、お客様対応基礎講座の実施などに取り組んだ結果、これからの日本ヒーブ協議会の進むべき方向の見えたチャレンジの年となった。

2014年度は、これを一步でも前進させるため「ヒーブ視点での新しい価値創造—生活の質の向上をめざして—」をテーマに掲げ、ヒーブ会員全員で取り組んでいきたい。

先日行われた消費者庁との懇談会でも 便利さを追及するあまり、生活の仕方を変えてしまうような商品やサービスなどが増え、本来あるべき生活術がなくなってしまうことを危惧する声もあった。日本ヒーブ協議会にも、生活の質をあげるための情報発信などを企業や行政、消費者関連団体などと連携して進める役割があり、たとえば、商品サービスを消費者が選択することで、次世代の環境維持などにつながるような情報・事例を見極め、生活者と企業双方にむけた活動として取り組みたい。

今の日本ヒーブ協議会は、とても小さな集団だが、多くの先輩ヒーブや消費者関連機関との横のつながりがあるからこそできるネットワーク、連携を強くし、会員と会員企業の専門知識を活かした情報発信や会員の能力向上および企業・社会への貢献を一層果たしていけるよう積極的な活動を心がけたい。

【活動方針】

- ① 会員相互の啓発と交流により、“ヒーブ視点”を掘り下げ能力向上を図るとともに企業や社会で貢献できる活動にむけて取り組む。
- ② 生活者・企業・行政・消費者（関連）団体及び先輩ヒーブとの連携を深め、社会への情報発信を行う。
- ③ 消費者関連行政機関や大学等などの情報提供の場に参画し、企業及び協議会の取り組みを紹介する場を広く持つ。
- ④ 会員・賛助会員の確保及び安定的な組織運営体制づくりに取り組む。

2014年4月17日

2014年度代表理事 上田 稚子

企画グループ

活動目標

- ・生活者と企業のパイプ役として、会員がより良い仕事をするための能力向上を図る。
- ・会員が、業種、職種、年齢を超えたヒーブのネットワークを活用できるようサポートする。
- ・会員一人ひとりがヒーブとしての活動目標を持ち、積極的に使命を果たせるようサポートする。
- ・日本ヒーブ協議会（以下協議会とする）の認知度を高め、広く活動内容を公開し、様々な分野との交流を深める。
- ・会員拡大に取り組み、活力ある組織運営を図り、有意義な活動を継続的に行うことにより、ヒーブとしての責任を果たす。

1. 活動目的

- (1) 代表理事の諮問機関として、代表理事を補佐し協議会運営が円滑に行われるよう努める。
- (2) 各支部が活動テーマを踏まえ、地域性を活かしながら運営できるよう支援するとともに、連携することにより相互の資質の向上を図る。
- (3) 協議会の代表として、他団体、行政、オピニオンリーダー等との交流を積極的に行い、情報交換に努めるとともに、協議会の存在・活動を社会にアピールする。
- (4) 協議会を中長期に展望し、今後の活動方向を検討し改革を推進する。
- (5) 優れたヒーブ会員の育成を図るため、自主的な研究活動を支援する。また、個々のヒーブの働きを社会にアピールする。
- (6) 協議会のシンクタンクとしてテーマを定めた基礎研究を進め、情報の蓄積を図り、その成果を継続的に社会に発信する。

2. 活動内容

- (1) 今年度のテーマに則り、協議会全体が効果的に活動できるよう推進する。
- (2) 時代に合った協議会運営ができるよう組織や運営についての改革を推進する。
- (3) 関西・九州支部の運営委員と適時会合をもち、支部活動の効率的な運営を図る。
- (4) その他、期中に発生する課題や提案に応えるための企画・支援を行う。
- (5) 生活者・企業・行政・消費者（関連）団体との「連携」と「協働」を目指し、活動推進を図る。
- (6) ヒーブコレクション（ヒーブバック）の管理及び販売を支援する。

研究会推進グループ

1. 活動目的

- (1) 会員の能力向上
 会員一人ひとりが「知識」「スキル」「感性」を磨き、その成果を会員・企業・社会にフィードバックできるよう研究会・見学会等を企画・運営する。
- (2) 協議会活動への参加促進
 月例会等を運営し、会員がヒーブ協議会の活動に積極的に参加できる環境づくりを目指す。
- (3) 会員相互のコミュニケーションの促進・支援
 企業間・会員間の交流を支援し、ネットワークの強化を図る。

2. 活動内容

- (1) 月例研究会・公開講座の運営
 - ・有識者・企業・行政等による講演会、企業見学会、オープンセミナーなどを中心に月例研究会を企画・運営する。
 - ・公開講座を企画・運営する月を適宜設け、協議会の対外的な認知を高める。
 (開催月は別途検討)
 - ・開催スケジュール (予定)

講演会 (公開講座含む)	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	2月	3月
オープンセミナー	1 2月								
見学会	1月								

- (2) 総会・記念講演会の運営
 - ・年1回開催する総会及び記念講演会を企画・運営する。

組織の活性化を図るグループ

1. 活動目的

協議会の活性化を目的として、協議会の基盤整備を行い、会員自らが積極的に活動できるように支援する。

2. 活動内容

- (1) 会員の管理と拡大
 - ・会員数増加に向けた具体的な戦略活動を構築し、会員参加で取り組める積極的な活動を展開する。
 - ・会員名簿活用事例の共有化を図り、会員メリットの再認識と会員満足度を高める。
- (2) 諸規則の見直し
 現状に則した内規類の見直しを実施する。

(3) グループ活動の推進

- ・会員が協議会運営に参加し、グループ活動内容の向上および会員活動の活性化につながるよう役割を明確化する。
- ・選挙管理委員会、プロジェクトを擁立する場合は、会員から募集を行い参画意識を高める。

(4) 交流会の開催

- ・より多くの会員と交流が図れるよう、月例研究会等にあわせて交流会を積極的に開催する。

(5) 会員へのガイダンス

- ・協議会に関する理解を深めるため、協議会活動について5月の月例研究会またはその前後で説明を実施する。

(6) 「理事会だより」のHP掲載

- ・理事会の議題の中からトピックスをまとめ、会員に報告する。

(7) 理事・監事選挙

- ・選挙管理委員会を組織し、選挙活動が滞りなく進むよう補佐する。

(8) 分科会・自主研究会活動の推進・運営

- ・2014年度は、ヒーブ視点の情報発信ができる分科会活動に重点をおき、分科会活動をとおして会員同士の交流を深め、各グループの活動を支援していく。
- ・研究成果を会員に報告するとともに、企業や社会に対しての情報提供を支援する。
- ・開催スケジュール（予定）

分科会	5月	6月	7月	9月	10月	11月	2月	3月
自主研究会	随時							

広報グループ

1. 活動目的

- (1) 協議会の存在及びその活動を広く外部に報せ、理解促進及び認知度向上を図る。
- (2) 生活者と企業のパイプ役を果たす場を支援し、生活者と直接交流を図る活動を促進する。

2. 活動内容

(1) 情報発信

- ・社会に向けて協議会の活動を積極的に発信し、協議会の認知及び理解を高めるとともにマスコミからの問い合わせに対応する。
- ・会員及び会員企業に対し、協議会の活動を効果的に知らせ、理解を高めることにより活動の促進を図る。

(2) パンフレットの作成

協議会の活動目的と活動内容及び参加企業を広く紹介するためのツール「What is HEIB?」を年1回更新、機関誌「レポートヒーブ」を年1回作成する。

(3) ホームページの運営

- ・外部へ協議会活動をタイムリーに発信するために情報収集を行い、充実した魅力あるページづくりを目指す。
- ・「メンバーズオンリー」ページにて月例研究会の案内や活動状況など会員への情報提供を迅速に行い、会員間のコミュニケーションや情報収集に役立つページとして充実させる。
- ・ホームページと連動した Facebook など SNS ツールの活用を検討する。

(4) 生活講習等

- ・講師の派遣等を通じて、生活に役立つ生活情報を提供し、協議会の社会的認知度を高める。

調査グループ

1. 活動目的

- (1) 協議会の活動に沿い、社会や会員企業に役立つ生活者情報を収集・分析し、会員の業務に役立てる。
- (2) 働く女性のリーディング集団として、「働く女性と暮らしの調査」を定期的実施し、その経年変化や課題・提言を社会に発信する。
- (3) 調査結果を積極的に PR することで協議会の認知度アップに繋げる。
- (4) 「働く女性と暮らしの調査」の中長期的ビジョンを探る。
- (5) 社会調査や分析手法、結果の表現方法などについて検討し、ノウハウを蓄積する。

2. 活動内容

- (1) 広報と連動し、引き続き第9回調査報告書の内容を広く社会に発信する。
- (2) 次回(第10回)調査の内容について、時期・方法・可変部分のテーマ・調査対象等について検討を行う。
- (3) 社会調査や分析手法、結果の表現方法などについて学習する。

関西支部

1. 活動目的

- (1) 月例研究活動を通じて、会員一人ひとりがヒーブに求められている資質である現状認識から問題提起し、解決に至るまでのプロセス管理、またそれを他者へ発信するプレゼンテーション力など様々な能力向上を目指し活動を行う。また、活動を通じ会員間のコミュニケーションを深めることで人間関係の構築やその関係性をベースとしたレベルアップを図る。
- (2) 会員一人ひとりが上記の内容を実践し、その成果を会員自らの企業へ持ち帰り情報や成果の共有を図り、ヒーブの存在価値を高める。
- (3) 合同月例研究会を通じて、支部を超えた会員相互のコミュニケーションを図るとともに地域で躍進する企業と生活者のよりよい関係性を学ぶ。

2. 活動内容

(1) 月例研究会活動

- ・会員の資質向上のみならず、業務へのフィードバックができる内容にし、会員・会員企業にとって役立つ研究会活動を目指す。
- ・引き続きセミ公開の研究会を多く開催し、会員以外の方にも参加いただき会員企業へ貢献度を高める。
- ・月例研究会のリーダーを中心とし、各チームで、講師交渉・案内状作成・会場手配から当日の運営、報告書の作成までを担当することにより、組織運営についてのスキルアップを図る。

(2) 広報活動

- ・ACAPとの合同月例、他団体・行政・大学等との交流によりヒーブの認知度を高める。
- ・ヒーブ視点での情報発信を積極的に行い新規会員の獲得に努める。

(3) 組織活動

- ・会員の協議会に対する理解を深め、積極的に会員活動が行えるよう、ガイダンスミーティング、ふれあいミーティング（ランチ・ディナー）を継続して行う。
- ・協議会の活動は会員一人ひとりの参加からなることを改めて認識し、全員参加型の活動に繋げる。
- ・会員間の業種・職種を超えた“ネットワークづくり”を促進する。

九州支部

1. 活動目的

- (1) 本年度の九州支部は『これからの時代の働く女性に必要なスキルを探し、体験する、学びの一年(仮)』というテーマのもと、多様になってきた働く女性に必要なスキルとは何かを探り、それを研究し、習得することを目指します。特に、若手育成が企業の将来を左右するなかで、なかなか定着しない若手社員を伸ばす方法・アイデアも研究し、自企業の将来への布石を研究する。また、日本ヒーブ協議会会員から講師を招き、ヒーブ自体の活性化と交流を促し、より強い会員基盤づくりを行っていく。
- (2) 昨年度立ち上げを計画しながら、前進できなかった「マーケティング研究会」の構成や運営について研究を進め、実施する。

2. 活動内容

(1) 月例研究会活動

- ・会員全員が運営に携わりつつも、役割を明確にする。
- ・年間活動テーマのもと、少人数の会員数でできるよう公開講座1回、月例研究会を具体的なスキルアップ講座として開催し、会員の能力向上を目指す。また、回数を増やすことで会員同士の交流を深める。

(2) 広報活動

- ・ヒーブのOB会員との連絡網を見直し、交流の機会を確立した上で、サポートや広報活動もお願いする。

- ・県や市の男女共同参画担当者やマスコミとの連携を深めネットワーク化を図るために、情報交換に注力する。
- ・マスコミへの連絡網を整理し、全員が連絡・確認できる体制を目指す。

(3) 組織活動

- ・新入会員への「ガイダンスミーティング」の実施や、個人会員にも活動内容、手順等の説明を確実にし、積極的な参加を促す。
- ・会員企業の協議会に対する理解を高めるために、公開講座においては、興味を抱ける内容とし上司、同僚の参加を呼び掛ける。

Ⅱ. 予算

1. 一般会計

<収入の部>

(単位：円)

科 目	金 額
前 期 繰 越 金	3,291,600
会 費	
正 会 員 95 名	5,700,000
個 人 会 員 13 名	234,000
小 計	5,934,000
入 会 金	
正 会 員 1 名	30,000
個 人 会 員 2 名	10,000
小 計	40,000
賛 助 会 費 29 口	1,450,000
雑 収 入	
預 貯 金 利 息	1,000
特 別 例 会 費	400,000
そ の 他	150,000
小 計	551,000
収 入 合 計	7,975,000
総 合 計	11,266,600

<支出の部>

(単位：円)

科 目	金 額	
活 動 費		
企画活動	500,000	
研究会推進活動	2,105,000	
組織の活性化を図る活動	310,000	
広報活動	420,000	
調査活動	50,000	
小 計		3,385,000
※活動費の地域別内訳		
東京	2,410,000	関西支部 675,000 九州支部 300,000
運 営 費		
地代家賃	990,000	
人件費	1,700,000	
コンサルタント費	432,000	
運賃・通信費	350,000	
交通費	500,000	
会議費	10,000	
消耗品費	100,000	
保守料	180,000	
支払手数料	25,000	
水道光熱費	80,000	
交際費	10,000	
賃借料	477,000	
租税公課	82,000	
雑費	10,000	
小 計		4,946,000
支 出 合 計		8,331,000
当期利益		△ 356,000
次期繰越金		3,291,600
総 合 計		11,266,600